

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>当法人の基本理念である「地域へ還元」の元に、併設施設と一体の帯広けいせい苑「ケア理念」に沿い、グループホーム基本理念を、地域に根ざしたサービス事業所の理念として掲げている。</p>	○	利用者個々人にとっての地域、この地域に我々の施設があることの意味を考えながら今後もより地域に根ざした活動を行ってきたいと思います。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>施設の基本理念に基づき、日常生活支援を行っている。ケース会議等における利用者へのケア視点等もそこに基づく考え方となっている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>入居契約時に、投資説の理念及びケアの考え方、環境としての家族の役割について説明し、「施設に入ったから何もできない」という理解ではなく、家族も一緒にケアをしていくことをお願いしている。また、入居前に通っていたなじみの店等に会い、その折々で説明している。</p>	○	今後も入居者家族に対し、共に支援する関係作りへの考え方を伝え続けていくと同時に、家族や地域に様々な方法で施設や利用者の状況伝えながら、この地域にある施設として運営していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>運営推進委員である近隣住民に施設便りを届けたり、町内会に行事の案内をしたりと取り組み始めている。</p>	○	運営推進委員や町内の人など施設側からのアプローチを積極的に行い、より地域と関係が密になるよう取り組んでいきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>併設の特別養護老人ホーム、生活支援ハウス等の施設利用者との交流をはじめ、近所の障害者授産施設の行事への参加などを行っている。また地元の町内会への入会により、より地元住民との日常的交流を・・・と町内会会議に参加したが、町内会に入会せずともお互いに行事等を知らせあったり、気軽に交流しては・・・とアドバイスあり</p>	○	運営推進委員や町内の人など施設側からのアプローチを積極的に行い、より地域と関係が密になるよう取り組んでいきたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>併設の特別養護老人ホーム、包括支援センターなどと連携し、行事へのお誘いや地域のミニ講座の手伝いなどを実施する体制を作っている。また、併設の認知症デイサービスと合同で運営推進委員会と交流を行っている。</p>	○	この場所にあることが、より地域住民に認知され、役立ててもらえるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>外部評価については、スタッフ全員で項目について理解し改善に取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も地域に向けての様々な取り組みを行う中で、施設やそのケアを見ていただいたりすることが増えるものと思われる。様々な観点での意見を言っていただけるよう当方からの配慮をしていきたいと考えている。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議(隔月開催)では、今年度の事業計画を策定・承認頂き、日常の生活ぶりを知っていただくための活動報告や、町内会入会について便宜を図っていただくことなどをアドバイスされ行っている。また6/12日にお年寄りの日常の姿と利用者家族の交流をかねて野遊会を企画したりした。</p>	○	<p>今後も今回の外部評価などの取り組みなどを取り入れてより良いサービスにつなげて生きたい</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町村に実習に入った学生の施設見学に応じたり、要介護認定等の諸手続きに対し、助言を頂く等の連携を行っている</p>	○	<p>同地域にある市役所出張所にはさまざまな地域情報があり、担当者のみならず交流連携していきたいと考えている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現時点では後見制度等の活用が必要な人はいない。管理者および介護職主任は特養で生活相談員として勤務の経験があり、必要な対応をとることが出来る体制となっている。</p>	○	<p>身元を引き受ける家族が利用者の兄といったケースもあるので、状況に添った対応をしていきたい</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>当施設の「ケア理念」を共有し、日々ケアの中で実践を行っている。</p>	○	<p>包括支援センターとも連携し、学習の機会を設けていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居契約時には、ケアの理念やその内容、利用料や体調不良時の医療対応、退去要件、個人情報保護等について説明を行い、同意を得ている。また体調不良により入院の継続が必要な利用者・家族に対しては入院先医療機関MSWなどと連携し、必要な治療が継続して受けられるよう調整した。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者個々の状態から、スタッフや外部の第三者委員等に表現することは難しいが、しぐさや行動からその方の意向を察し対応している。その分家族や第三者委員の方に施設のケアを知っていただき、共にケアしていく関係を維持しながら、些細なことでも言い易いよう配慮している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	通院は、都合がつく家族には医療機関で待ち合わせをし、受診に立ち会っていただいたり、また利用者のみの場合には通院後の結果等を連絡している。また毎月の郵便にて、金銭管理を行っている利用者家族には金銭出納票の写しを送付している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付係を施設内に配置していると同時に、第三者委員をもうけ利用者・家族より苦情を言い易い配慮をしている。(利用契約時に説明している)	○	普段の面会時や、家族参加行事等の機会を設け、スタッフとの関係をより深めることによって、「話しやすい」状況を作りつつ、共に支えあう関係を作っていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例の会議や日常の中でスタッフの相談を聞き、意見を出し合いながら運営している。(下欄の様なことなど)	○	スタッフがより顔を合わせて話せる機会を増やし、より多くの声が出し合えるよう改善していきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の重度化、食事援助に時間を要する等の状況などに対応した柔軟な勤務調整に勤めている。(遅番勤務など)		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今年5月から新事業の関係で併設の特養との間で介護職員3人の異動があった。利用者数人は入居前にショートステイの利用を通じ交流があったり、以前に特養から入居した利用者であることから、スタッフの紹介などをしながら利用者にとって大きなダメージにならないよう配慮した。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>当施設は育成目的の人事考課を取り入れており、日常業務を通じスタッフ個々に合った育成に取り組んでいる。また、適宜外部研修への参加や併設施設と合同で苑内研修会などを企画し、実施している</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>今年度始めて市内のグループホームとの間で、互いの施設の夏祭りに参加し、交流を行った。また、市内のグループホームから看取りの関係で問い合わせがあり、当施設の書式を参考にさせていただいたりした。</p>	<p>○ 今後も他のグループホームの見学や、職員の交換研修などに取組んで生きたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>仕事から離れてリフレッシュするために有給の希望を取り入れながら勤務調整しています。</p>	<p>○ 小規模施設ゆえ人間関係も狭くなりストレスがたまりやすい環境になり勝ちなため、スタッフがしやすい雰囲気作りと併設施設職員との交流などを行って生きたい。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>スタッフの日常の取り組みや仕事振りに理解を示し、共感できるよう努めている。また、職員が向上心を持って仕事ができるよう育成を目的として人事考課を取り入れている。</p>	<p>○ よりスタッフを個別に見ていながら、状況に沿った援助をしつつ育成していくことや、他施設の見学などにより前向きな刺激を受けられるよう調整する等取組んでいきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前にご本人の所(自宅や介護サービス事業所)へ伺ったり、スタッフのことがわかってもらえるようなかわりをしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事業所柄、併設の居宅介護支援事業所からの入居申込みの紹介が多い。そんな中で、担当ケアマネージャーや利用している介護サービス事業所から状況を聴取しその方の状況と介護者家族の状況を理解し利用に至るまでに必要な援助を行っている。</p>	<p>○ 初期相談で直接グループホームを訪ねる利用者家族はほとんどいない(ケアマネからの紹介がほとんど)状況であるが、まずはグループホームとして相談を受ける(ことができる)事を周知していただくことから始めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況を聴取し、必要時には居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、現在利用している介護サービス事業所等に連絡し相談内容等の解決に向けた動きをとっている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居にいたる経緯によりケースバイケースではあるが、環境の違いや利用者の心情を配慮しつつ、その人らしい生活を送っていただくため、面接や家庭訪問などを行い、利用者にとって安心できる受け入れの環境や生活づくり、スタッフの支援を検討し行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人にとって、「今何がしたいのか」「何を望んでいるのか」を常に念頭に置き、利用者が望む生活・その人らしい生活を送るためにご本人らしい生活活動の支援をしつつ、昔の話や、一緒に畑をやるなかで昔の智慧を聞いたり頼りにされるハリを持ってもらえるよう関わっている。	○	元々農業を営んでいた利用者の方に野菜作りの指南をして頂いたり、調理のお手伝いや買物へのねぎらいや感謝、利用者同志の関係などを個別に見ながら場面作りや声かけなどを行っている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日常的な事は担当を決め、ご家族への連絡をしている。遠方の家族も利用者の半数ほどおり「一緒に支えあう事」は現実的に難しいが、近況を少しでもわかっていただけるよう手紙や写真入のお便りを作り送付している。近隣に住む家族には面会時に食事を勧めていただいたり、通院についてもらったりと「一緒に見ていく」関係作りを維持していくようにしている。	○	今後も利用者家族と様々な事柄について話し合い、利用者にとって必要な役割を担っていただける関係深をめていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	上記同様 家族が益参りに連れてってくれたり、畑の手入れを一緒にしてくれるなど、家族の関わりを利用者のために継続してくれるよう援助している。	○	今後も家族の役割を必要に応じて担っていただけるよう配慮していきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	元々通っていた理・美容院に出かける来てもらうことや、墓参りなどスタッフだけでなく家族の力も借りながら行うことや、以前通っていた介護サービス事業所のスタッフとの交流など、入居によって人間関係や活動範囲が矮小にならないように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士でコミュニケーションが難しい方が多かったり、限られている状況です。些細な事でも相手の状況を理解できず敵視してしまったりと様々な状況は見えますが、そのつど間に入り相手の状況を伝えたりと関係を維持する関わりを行っています。普段でも利用者の活動に対し、みんなの前で感謝をしたり「こんなことが出来る人だ」などと周囲に認知してもらえるような配慮をしている。	○	利用者の認知症の症状などの状態変化や、生活・生育暦の違いなどから利用者同士の関係は今後も配慮し続けていく必要があり、継続して取り組んでいきます。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	すでに退去した利用者の家族が、そば打ちに来てくれたり、大きな行事に参加してくれたりしている。今回退去した利用者の近隣に住む家族は、食事の支度などのボランティアを希望されていた。この関係を大切に、これから育てていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中での会話や表情などからご本人の意向の把握に努めている。また、家族や、ケアマネ、利用していた介護サービス事業所からもご本人の状況などを聴取し、スタッフ間で意見交換しながらその人らしい生活を送っていただけるよう把握・検討している。	○	一人ひとりの状態変化に応じて、その思いや希望も変化するのでその状況に応じ検討しながら対応していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用前に家庭訪問し、ご本人・ご家族から生活歴や生育暦等を伺うと共に、生活環境を把握。また、ケアマネ、介護サービス事業者等からも情報入手し把握努めている。	○	入居後も継続して家族の面会の折や、身近な家族以外の人すらも情報し、より「その人らしさ」の把握に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人一人の生活・行動を見守りながら、体調の変化や気分の状況を常に把握している。またご本人の「出来る」部分を見逃さず、引き出せるような援助に努めている。また職員間でも話をしながら本人像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居時や状態変化時に状態をアセスメントし、ご本人・家族の思いや、意向も踏まえながら、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居時や状態変化時に状態をアセスメントし、ご本人・家族の思いや、意向も踏まえながら、介護計画を作成している。必要に応じケース会議を開催、またつき一回の定例会でも見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケア記録を毎日記入し、スタッフで毎日申し継ぎ、閲覧しながら日常のケア実践に活かしている。	○	毎日の記録を一定期間ごとに整理・評価することで利用者の変化が追えるように様式を検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	体調不良時の通院などは、家族が対応困難なときはスタッフが柔軟に対応している。また、入院に至った場合なども医療機関スタッフと連携し、食事の援助や環境の変化による不都合を軽減する等の援助を行っている。また、医療連携面では、主治医の指示の元点滴などの処置対応がスムーズに出来るよう体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者の状況に応じて、行事時にボランティアに入ってもらったり、併設施設の利用者やスタッフを招待したりなどを行っている。	○	今後も利用者の要望や状況、家族の意向などを踏まえ外部の方との交流・連携を行っていききたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	身体状況により併設のデイサービスのリフト浴槽を借りたり、入居間もない利用者に対し、生活リズムを維持する目的で元々利用していた認知症デイに遊びに行ったりしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	複合施設ゆえ、併設している地域包括支援センターから、権利擁護についてなどの情報をもらっている。また、運営推進会議には他事業所の包括支援センターにも出席いただいているので、他グループホームの地域へのアプローチなどの情報を頂いている。	○	今後も地域との関係を深めていくために、地域包括支援センターの機能を知り、連携をとりながら対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居前の主治医にかかることを基本としており、通院の援助を継続して行っている。家族の同行を原則としているが、立ち会えない場合は職員による代行を行い、結果を報告している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	併設の特養の主治医が精神科医であり、週2回の往診時に必要なら診察を受けることができる		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設の特養の看護師と日常的な連携を行っており、日常の健康管理(食事不振や便秘、発熱等)や必要時の対応や処置、アドバイスを得ている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	体調不良により入院に至った利用者に対し、その心情等を考慮し、毎日の面会ならびに食事の介助など利用者の入院による状態の低下が最小限になるような支援を行っている。	○	今後も利用者の状況を見ながら、なるべく退院が短く、入院によるさまざまなダメージが最小限になるよう努めていきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者の重度化に対し、家族の意向を確認し、可能な当施設で可能なケアについて説明し対応を行っている。また、終末の看取り指針を作成している。	○	ここ数年の間で利用者の重度化が進んでいるが、予測される状況について、家族・関係機関と話し合いながら準備していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者の重度化に対し、家族の意向を確認し、可能な当施設で可能なケアについて説明し対応を行っている。また、週末の看取り指針を作成している。	○	重度化しても出来る限りグループホームで過ごしたいとの家族の意向が多いため、個別のケースを大切にしながら進んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>等施設から特養に移った利用者がいたが、ケアやかかわりの状況や医療・家族の状況などを特養スタッフに申し送りをしたり、移動後に面会に行ったりしていた。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>家庭的な雰囲気を保ちつつ、利用者の尊厳を損なわないような声かけに勤めている。また、個人情報の保護については、利用契約時に当施設の利用目的や写真の使用などの項目からなる同意書を取り交わしている。また、介護実習や認知症実践・管理者研修時にも当施設として個人情報の保護に関する同意書を取り交わし、定期的以外の使用や漏洩を防止している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>その人その人に合わせた声かけにより、出来るだけ本人が自分で決められるような関わりに努めている。また自らの訴えが不明瞭な方については、その表情やしぐさなどからもその思いを汲み取り対応するよう努めている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>画一的な時間による生活リズムを作らず、利用者ひとりひとりの体調やペースを大切に、そのときご本人の希望や思いに添って生活していただけるよう努めている。</p>	○	ひとりひとりのペースはそのときそのときに違う。そのときの心情・体調などにより変化する状況に対して、よりその人を知ることによって多くの対応の「引き出し」を増やしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ひとりひとりの生活習慣や身体状況に合わせて援助している。また、行事の際には化粧やおしゃれな服などを楽しんでいただけるようにしている。理美容は馴染みの店へ行ったり、出張理美容にて行っている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の加齢に伴い、ひとりひとりのその時々状況に合わせて食事の準備(テーブル拭きや野菜の皮むき等)や味見、後片付け(食器洗いなど)を負担にならぬよう担ってもらっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、喫煙する利用者はいないが、好みや状態に合わせたおやつや飲み物、摂食状態に合わせたおかずやパン、ブレンダー食などを個別に準備している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のリズムを個別に把握しつつ、日常の些細なしぐさや動きなどから排泄の声かけを行いトイレへお連れするなど、オムツの使用を抑えつつ、気持ちの良い排泄につながるよう努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者本人からは入浴の希望などがなかなかないところではあるが、利用者のその時々体調や気持ちの状況を見ながら入浴をお誘いをし一人一人に合わせたケアを提供しつつ入浴していただいている。	○	ご本人の心情などにより入浴がうまく行えないこともあるので、余裕が持てる勤務調整などスタッフの状況も考えながら対応していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自宅での習慣と「自分の家」という感覚からか、居間のソファでうたた寝したり、又夜間なかなか就寝できない人にはゆったりと安心するまで一緒にいたり、話を聞いたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者個々の生活歴や家族などから家庭での役割を聞き、施設の中でご本人が役割として認識しうる家事や買い物、畑の世話などを担ってもらっている。また、併設の施設に遊びに出掛けたり、買い物、個別の楽しみとしての外出などを行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	手元に所持金の一部を所持していた人がいたが、現在はスタッフが預かり支払いの代行を行っている。最近入居した利用者は、僅かな小遣いを持っていると安心とのこと所持してもらっている。	○	利用者の一部にお金を支払うことが可能な方がいるので、職員がフォローしたり、支払う機会を設け、実際に支払ってもらったりすることでその大切さを感じて頂けるよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ひとりひとりの希望に添った外出を行っている。その人の好きなもの・場所や事柄などを本人との関わりの中で発見し、また自ら外出の意思を訴えられない利用者さんもいるのでスタッフ側から支援し外出に繋げている。	○	その人らしく生活をしていただくために、今後も利用者個々の気持ちを察しつつ、なじみの人の手を借りながら外出できる支援をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	スタッフと利用者個別の外出は利用者の希望を聞き随時行っている。家族と一緒に外出は特に制限を設けず家族の要望を受け対応している。が、家族の力を借りて、その利用者のさまざまな思い出を想起するような関わりや、家族との外出によって生活の活力が生まれるなどの家族の力を借りた関わりのがらりとといった面では課題がある。	○	日常の面会時以外に、夏祭り観楓会や年末のクリスマス会などの家族が来苑する機会や、施設だよりなどを通じて、負担にならぬよう家族に働きかけを行っていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	加齢による状態の低下により、自ら手紙を書いたり、電話が出来書いたり、読み聞かせたりし、本人の気持ちを捉えるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間などは定めず、「いつでも来てください」と家族には伝えている。家族来訪時には、自室にてゆったりと過ごしていただけるよう配慮しつつ、久しぶりにいらした家族などには、近況などを伝えながらその間の出来事や今の状況などを知ってもらえるように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在身体拘束を必要とする利用者はいないが、併設施設と合同で身体拘束防止に関するマニュアルを作成し対応している。施設内では見守りを基本とし、センサーマットやスイング型車椅子などの器具を使用している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関に施錠しなくともいいようにドアセンサーを設置しているが、センサーに頼りがちになってしまうことを懸念し、利用者の居場所を気にする・確認するなど心がけて対応しているため日常的にセンサーは使用していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>スタッフ同士で声を掛け合いながら、利用者が何処にいるのか・どのような状況なのか等把握し合い、事故防止に努めています。夜間は物音がすればすぐ対応できるような位置にスタッフが待機しています。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>切れるもの〔包丁など〕は利用者が直接目に触れないところに収納しており、また薬は職員室に保管している。</p>	○	<p>利用者が変わればその人その人に添った危険な物品の管理を考えていく必要がある。</p>
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>転倒防止のために施設内で靴をはいてもらったり、歩行状態を常に見守り、付き添うなどしている。併設施設と合同で事故防止委員会を組織し、事故防止対策に取り組んでいる。</p>	○	<p>利用者の状態を観察しながら、危険なことに対しては未然に防止するよう取り組んでいきたい。</p>
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>併設施設と合同で救急法や心配蘇生法などを赤十字救急隊から指導してもらっている。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年に2回日中、夜間を想定し避難訓練・消火器の使用訓練などを行っている。施設の立地条件から近隣に民家なく、併設施設との間で協力体制を作り、かけつけ体制を整備するなど万一の事態に備えている。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>加齢に伴う状態変化や疾病や怪我、感染や災害など家族へ連絡し、状況に合った説明を行い、当施設で行うケア・対応について伝え、意見を伺っている。</p>	○	<p>予測できうる様々なリスクについて、施設側がより情報を収集し、利用者が安心して生活できるよう対策を講じつつ、家族にも説明していきたい。</p>
<p>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々バイタルチェックを行い、状態をスタッフが共有し対応している。併設施設の看護師・主治医とも連携し、必要時は通院〔家族連絡を併行〕するなど早期対応を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別の服薬ファイルを作成し、効用や服薬量について把握しやすくしている。また、定期服薬には必ず見守り・援助を行い適切な服薬を援助している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	加齢により自然排便が困難な利用者があるが、消化しやすい食事や嚥下の状況にあわせてゼリー等水分の工夫をした上で、食事・水分量をチェックしつつ、必要時には浣腸などを行いながら排泄援助を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ご本人のペースで朝自分で歯磨きを行う方や毎食はずさなくてはならない方、毎食後口腔内清拭を行う方など一人ひとりの状況に合わせて行っている。	○	個別により細かく配慮し、夜間は義歯をなるべく外すようにし、ポリドントなどにつけたりして清潔を保つ必要あり取り組んでいきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立は、栄養のバランスに配慮し、あまり食事が取れない方や、ムラのある方について形態を工夫し、また食事チェックをしている。また食事以外でも間食や水分が取れるように援助している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設施設と合同で感染対策委員会を定期的開催している。また、感染対策マニュアルも共有し対応している。日常的には、排泄援助時に手洗い・消毒を徹底しペーパータオルを使用している。また、毎年11月にインフルエンザの予防接種を利用者・職員に行っている。	○	毎年基本的なことをしっかりと行い、継続していくことを第一とし、感染が請った場合は感染対策委員会を中心とした対応によりまんえんの防止を図っていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所・器具は清潔に保ち、食器は洗浄乾燥機を使用し衛生的に管理している。食材は賞味期限を確認し、期限が経過した物は廃棄するなど使用しないことを徹底し、毎日食材を一日分ずつ購入している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>利用者や外来者などが親しみやすく、また季節感などを感じてもらえるような設えを検討し行っている最中である。</p>	○	今後もより季節感をを取り入れた家庭のような玄関作りを行っていきたい
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>加齢による低下等を踏まえた一人ひとりの状況を考え、日常生活における刺激をどのような空間を作り、そこで生活する事で得ることができるかソファの位置などを動かしたりしながら検討工夫している最中である。</p>	○	利用者個々の状況や関係性を配慮し、また窓から見える季節感なども考えながら取り組んでいきたい
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>共用スペースで家庭の居間のようにソファで転寝したいとか、テレビと外が一度に見れる場所、全体が見渡せる場所などその人にあった居場所の工夫をしている。</p>	○	ひとりひとりの状態や関係性に配慮し、その変化に対応した居場所づくりを考え、整えていきたい。
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>利用者個々のもともとの生活で大切なもの〔仏壇など〕を持ち込んでいたり、入居前の生活パターン〔ベッドではなくソファ下で休むなど〕を尊重するなどご本人らしく、かつ居心地がよく過ごしていただけるように工夫している。</p>	○	入居して日が浅い利用者など、様々な場面を通じてスタッフが利用所の生活ぶりや自立できる可能性を知り、深めながらその人らしい生活環境を整えていきたい。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>日常的に施設内の換気を行っている(冬季間も感染対策として)。また夏季真夏日などはエアコンを使用し、利用者が快適に過ごしていただけるよう配慮している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>トイレや廊下の手すりなど安全に生活できる工夫がされている。また、視力障害のある方の居室は、その方の自力移動を配慮してできるだけ障害物を置かない等の配慮をしている。</p>	○	今後、利用者個々の状態変化に合わせて適切な対応をしたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者個々の「わかること」を個別に把握し、利用者に沿った環境を整えている。状態が変わったときはその都度変化に合わせた対応をしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>施設前部と裏庭には菜園、裏庭芝生には野鳥の餌台などを作り、活動の刺激となるような配慮をしている。</p>	○	<p>四季を感じられることや、利用者個々にあわせ、活動の意欲につながるような配慮を続けていきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p> <p>①</p> <p>スタッフは一人ひとりの思いや暮らし方について、そのときそのとき必要とされていることを汲み取りケアすることで、安心して生活していると思います。寝たきり状態にある方でも体調を考え、その方に配慮したタイミングで離床したりするなど、どのような状態であってもひとりひとりの利用者の意向をつかんでいると思います。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない</p> <p>②</p> <p>毎日とはいえないが、その日その場に応じ、隣りに座って話し掛けたりお茶を一緒に飲んだり、スタッフの休憩を一緒にとったりしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>①</p> <p>体調やそのときの状況を察し、ご本人のペースで起床したり食事したりとスタッフ側からのペースメイクをしないようにしている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>②</p> <p>加齢に伴う利用者の状態低下ゆえ、感情表出や自発的行動が少なくなってきた利用者が増えてきているが、その状態に合わせた支援によって生き生きとした表情が見られていると思う。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>③</p> <p>加齢に伴い、状態の低下している利用者については、その意思を汲んで主体的に出かけることが難しくなってきたが、買物や個々人の希望に添った行楽などを行っている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>①</p> <p>併設の特養看護師の援助体制や主治医〔精神科〕の必要時の往診、歯科医の併用など体制は整っている。スタッフの体調面での観察も些細な変化から症状の悪化を防ぐべく対応しているため、不安なく過ごせているものと思う。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>①</p> <p>様々な状況に対し、いち早く気づき対応できているため、利用者は安心して暮らせていると思う。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない</p> <p>①</p> <p>不安の多くは体調面や入院後に再びグループホームに再入居できるかといったことで、遠距離の家族についてはこまめに連絡(体調の不安定時や通院の結果、回復の状況等)したり、入院時は毎日の見舞いや医療機関での家族との相談・援助に努めるなど、日常のケア以外の対応をしており信頼関係が築かれていると思っている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p> <p>③</p> <p>現在のところご近所の方がたまに来る程度である。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	② 隔月の運営推進会議で、家族・利用者との交流会などを開催したり、地元町内会の集まりに参加、夏祭りに他のグループホームと交流したり少しずつではあるが理解者・応援者は増えていると思う。
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	② 異動に伴う混乱が一時あったが、ほぼ生き生きと働いていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	② もう少し自分のそばにいて欲しいと思う人はいると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 利用者の重度化と共によりその方にあつた対応が必要となってきました。体力が低下しても、よりその方の状況に添った対応を心がけています。